



人間にとって最も偉大で最も美しいものは、太陽の相であらう。太陽神界の主催者であられる天照大御神は、森羅万象よろずの生命に、おしなべて光と熱を、惜しみなく与えられる。光は神智であり、熱は聖愛である。

人間の生命は、天照大御神の御本質をその儘まま恵まれ、何時いつ何処どこでも、燦然として輝き出づる可能性を持つている。絶対無我の自己の内奥から、愛と光が輝き出るとき、御稜りやう威は我にかかぶり、おのずから最高最貴の生活が営まれる。人間が大御心を、その儘ままに生くる時、その輝きは全宇宙に照り徹り、高次元神界への道が開け、無限の幸福を味わうことができる。大御心は太陽の心であり、太陽の姿であり、六治ろくぢを照徹ていせつしている。

※六治・天地と四方。上下四方のこと。



